

平成24年度幸区地域課題対応事業 事業評価

| | 事業名 | 所管課 | 目的及び内容 | 決算額 | 実施結果 | 事業の評価 | 評価 |
|-----------------|------------------|--------|---|-----------|---|--|----|
| 1 安全・安心まちづくり事業費 | | | | | | | |
| (1) | 地域防災活動の推進事業 | 危機管理担当 | <p>災害の被害を低減するために、自分の命は自分で守る、自分たちの地域は自分たちで守る、という「自助・共助」の意識が大切であり、日頃から防災に対する備えや、知識を習得しておくことが必要であり、区民の防災意識の高揚を図ることを目的とする。</p> <p>川崎市では各家庭で最低3日分の水や食料の備蓄を呼びかけており、防災フェアを開催して備蓄品を展示することにより、広く区民へ周知する。</p> | 3,189,900 | <p>防災マップについては、住居表示や自治会の追加に対応するとともに、東日本大震災以降の区民ニーズに対応した、津波想定や標高の表示を取り入れたマップを77,500部(内4ヵ国語版2,500部)作製した。また、防災フェアについては、警察、消防等の協力により車両の展示や防災関係団体等の活動パネル展示、防災用品の展示等を行った。同時に自衛隊川崎出張所長による東日本大震災時の災害派遣についての講演会も実施した。</p> | <p>地域住民向けの防災マップの発行、防災フェアの開催により、各家庭や地域の中で防災について再度考える機会を提供し、区民の防災意識の高揚を図る事ができ、目標を達成できた。</p> | A |
| (2) | 安全・安心まちづくり普及啓発事業 | 危機管理担当 | <p>区民が、安全かつ安心して暮らせるまちづくりを目指すため、「自分たちのまちは、自分たちで守る。」の精神を住民1人ひとりが持つよう各種普及啓発事業を通して意識の高揚を呼び掛ける。</p> <p>市民や地域団体、警察などと連携して、街頭キャンペーンや防犯教室、並びに防犯パトロールを実施する。</p> | 379,470 | <p>24年度内において、以下の活動を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全・安心キャンペーン(2回、100名動員) ・防犯パトロール(区内3地区計64回) ・こどもの安全の日パトロール(計4回) ・その他(消防フェアにおける啓発物の配布2回、啓発ポスター配布(区内小中学校18校36枚) | <p>年度を通じて継続した啓発物の配布や呼び掛け等による周知・啓発活動の実施の結果、多くの区民においては活動の意義の理解、ひいては防犯意識の浸透、高揚が図られたと考えられ、目標を達成できた。</p> | A |
| (3) | 交通安全の普及啓発事業 | 危機管理担当 | <p>交通事故を防止するための啓発活動を地域ぐるみで実施することで、歩行中や自転車に関する交通事故を減らし、また安全でかつ安心して活動できるよう、交通安全意識の高揚を図る。</p> <p>区内主要駅前等における交通安全キャンペーンをはじめとする啓発活動及び区内小学校1、3年生を主とした交通安全教室を実施する。</p> | 1,070,947 | <p>24年度内において、以下の活動を実施。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①交通安全教室実施回数41回、参加人数約4,000人 ②各種交通安全キャンペーン実施回数11回、動員人員255人 ③区内発生事故(アンダーパス、塚越踏切)に対応した各種啓発活動の件数等3回 | <p>交通安全関連団体や警察と連携した地域における周知・啓発活動や、区内小学校での交通安全教室の実施により、地元に基づき、かつ幅広い年齢層を対象に、運動の趣旨の理解や交通安全意識の高揚を図ることができたことにより、目標は概ね達成されたと考える。</p> | A |
| (4) | さいわい動物愛護推進事業 | 衛生課 | <p>動物の愛護と適正な飼養管理について区民の理解と関心を深め、動物愛護思想の普及啓発により、人と動物の共生を図る。</p> <p>動物愛護、適正飼養及びペットの防災に関する講習会等を開催する。窓口では、子供向け動物愛護啓発小冊子、マナー向上のための糞取り袋、ペットの飼い主の防災意識を高めるために昨年度増刷した防災手帳の配布を継続すると共に、区民の相談に対応するため種々の啓発用プレートを作成・配布する。</p> | 247,097 | <p>動物愛護啓発冊子「ワンコからのてがみ」を2,000部作成し、区内全小学1年生に配布した。地域的な問題となりやすい犬の糞尿処理について、飼い主等への啓発用プレートを作成し、風雨に耐えるようにラミネート加工後、配布した。また、「ペットの防災セミナー」(32名参加)、夢見ヶ崎動物公園との共催で「親子動物愛護教室」(6組12名参加)、動物愛護センターとの共催で「犬の飼い方教室」(20名参加)を実施した。</p> | <p>動物愛護思想の普及及び動物飼養者のモラル向上は、短期間の活動では結果が出にくいいため、幼年期の子供を含めた普及啓発事業を継続実施していくことが重要である。また、動物飼養可能なマンション等の増加により、飼い主に対して動物も含めた防災対策の啓発を合わせて行ったことは、飼い主の自発性を促すよい機会となった。</p> | A |

平成24年度幸区地域課題対応事業 事業評価

| 事業名 | 所管課 | 目的及び内容 | 決算額 | 実施結果 | 事業の評価 | 評価 |
|------------------|---------|--|-----------|---|--|----|
| 2 地域福祉・健康づくり事業費 | | | | | | |
| (1) 保健福祉情報発信事業 | 地域保健福祉課 | <p>情報を的確かつ効果的に区民に届け、保健・福祉に関する関心と理解を深めるとともに、保健福祉センターの講座等の利用を促進する。</p> <p>保健福祉センターで行う事業や講座等、保健福祉に関する詳しい情報を記載した情報誌「幸区役所保健福祉センターだより」をA4サイズ(8ページ)、フルカラーで作成する。また、区内全世帯に年間3回ポスティングにより全戸配布するとともに、区内公共施設でも配布し、区のホームページにも掲載して情報発信する。</p> | 2,838,464 | <p>前期・後期・特別号版ともに、保健福祉センター各課・担当の業務や制度の周知及び催し物のお知らせをフルカラーで掲載し、各号73,500部を作成し、6月・10月・2月に区内の全世帯に配布するとともに、区内公共施設でも配布し、区のホームページにも掲載した。</p> | <p>「保健福祉センターだより」を全世帯配布及びホームページに掲載することにより、より多くの幸区民に保健・福祉に関しての具体的な制度や業務、健康づくり等について、必要な人に必要な情報を的確かつ効果的に提供することができた。</p> <p>なお、アンケートの結果「とても役に立った」「役に立った」との回答が76%に達した。</p> | A |
| (2) 健康長寿推進モデル事業 | 地域保健福祉課 | <p>高齢者が地域でのつながりを持ち、健康の維持増進を行うため、身近な地域で住民主体の健康づくり活動を展開する。健康づくりやそのための環境づくりについて、住民と共に考えていく。健康問題は日吉地区で共通しているが、地区の特性に合わせて取組むため、3地区に分けて3年かけて日吉地区全体に展開していく。</p> <p>① 町内会を対象に、地区の健康づくり活動状況やニーズを把握し、健康づくり教室を企画する。</p> <p>② 町内会ごとの健康推進教室を開催する。必要時フォロー教室を行う。</p> <p>③ 日吉地区全体の高齢者を対象にした健康づくりイベントを開催する。</p> <p>④ 今年度対象の地区の活動状況の紹介と地域の健康づくり情報の広報用ちらしを作成し、日吉地区町内会に回覧する。</p> | 606,600 | <p>① 健康づくりのリーダー養成を目的とした「健康づくり学習会」の実施に向けて、南加瀬地区の町会ごとの協議を行い、事業説明を実施。各町内会から参加者を募った。</p> <p>② 健康づくり学習会は日吉健康ステーションを会場に全10回実施した。各町内会から36名参加。(延277人参加)</p> <p>③ ②の参加者を中心に、南加瀬各町内会で「健康づくり普及講座」を実施した。(全5回 延96名)</p> <p>④ ②の学習会をきっかけに1町内会で健康づくりの自主グループが発足し、活動が継続している。</p> <p>⑤ ②の学習会の参加者の協力を得て、2月25日(月)に「第2回日吉健康フェスタ」を実施し、107名の参加があった。</p> <p>⑥ ②～⑤の活動状況をまとめ、活動報告用リーフレットを作成し、日吉地区へ回覧周知した。</p> | <p>南加瀬町内会の協力のもと、計画どおり実施できた。学習会や町内会ごとの講座は各町内会の事情に合わせた内容で展開でき、南加瀬に居住する高齢者の、健康づくり活動を継続していくための基盤強化につながった。グループワークやアンケートによる参加者の満足度も高かった。</p> | A |
| (3) ふれあい・すこやか事業 | 高齢者支援課 | <p>高齢者の孤立を防止し、地域ぐるみで支えるために、高齢者が「ふれあいながらすこやかに暮らせる」ために必要な健康や福祉に関する知識や情報を持ったふれすこサポーターを養成し、身近な地域で高齢者同士がお互いに支え合うことができる地域づくりを進める。</p> <p>・「ふれすこサポーター」養成講座を、地域に長年居住し地域事情に精通している老人クラブの会員を対象として開催し、講座で学んだ知識や情報を自ら役立てるとともに、生活圏域でのより身近な存在として提供や助言を行うことができる人材を養成する。</p> <p>・「ふれすこサポーター」を養成する地域を段階的に拡大し、増やしていくことにより高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるまちづくりを進める。</p> <p>・御幸西地区を第2期対象地区とし、地域の特性を生かした「ふれすこサポーター養成講座テキスト」を作成し、対象地区老人クラブに養成講座を開催する。</p> <p>・養成講座修了生の交流会を持ち、地区を越えた情報交換の場を設定するとともに、安心してサポーターが継続できるように支援する。</p> | 757,949 | <p>10月から12月にかけて4回の講座を開催し、46名のふれすこサポーターを養成した。基調講演、健康体操、地域の特性を載せたテキストを用いた講義のほか、認知症サポーター養成講座を本講座の中で実施し、認知症サポーター養成も合わせて行った。また、23年度サポーターと24年度サポーターの交流を図り、安心してサポーターが継続できるようにフォロー講座を2月に開催し61人の参加があり、認知症の方への接し方の確認を行った。</p> | <p>身近な地域で高齢者同士がお互いに支え合うことができる地域づくりを進めるための互助の基盤の構築ができた。また、正しい情報の伝達経路が確立され、サポーターの生きがいつくりにも繋がった。高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくりの一助を担うことができ、目的を達成することができた。</p> | A |
| (4) さいわい食品衛生啓発事業 | 衛生課 | <p>食中毒予防の原則(つけない、増やさない、やっつける)や正しい手洗い方法、食品の正しい保存方法等について啓発を行い、食品衛生に関する知識の向上を図り、家庭内での食中毒を予防する。</p> <p>家庭での食中毒予防を目的としたブックレット(我が家の食品衛生)を増刷し、8月に実施する食中毒予防キャンペーンや区民向けの衛生講習会等で配布する。</p> <p>8月の食品衛生月間に区役所内展示スペースで、区内の小学生が作成した食中毒予防等食品衛生に関するポスター展を開催する。</p> | 214,023 | <p>食品衛生啓発ブックレット(我が家の食品衛生)を2,000部増刷し、各種衛生講習会や食中毒予防キャンペーン等で配布した。</p> <p>8月の食品衛生月間では、区役所の展示スペースで南加瀬小学校(8月1日～15日、26枚)及び幸町小学校(8月16日～31日、39枚)の児童が作成した食中毒予防等に関するポスター展を実施した。日吉合同庁舎でも9月4日～11日にポスター展を実施した。</p> | <p>家庭内でも食中毒は発生しているので、区民に正しい食品衛生知識を啓発していく必要がある。家庭用に要点を簡単にまとめたブックレットは身近な食中毒を予防することに効果がある。</p> <p>ポスター展は児童に食品衛生を考えてもらおうと同時に、家庭や来庁者にも興味をもってもらうことができ啓発効果が高い。</p> | A |

平成24年度幸区地域課題対応事業 事業評価

| 事業名 | 所管課 | 目的及び内容 | 決算額 | 実施結果 | 事業の評価 | 評価 |
|--------------------|---------|---|-----------|---|--|----|
| 3 総合的子ども支援事業費 | | | | | | |
| (1) 総合的な子ども支援事業 | 子ども支援室 | 子育て家庭の育児不安を解消し、安心して子どもを育てることができる社会を目指して、地域全体で子育てを支援する環境づくりを進める。 幸区子ども総合支援ネットワーク会議及び4部会（「子どもの発達支援部会」「みんなで子育てフェア部会」「子どもの安全安心部会」「子ども情報ネット部会」）を開催し、区内の子ども支援に関係する団体・機関の連絡調整機能の強化を図る。また、子どもの虐待予防や要保護児童の早期発見に地域で取り組むため要保護児童対策地域協議会幸区実務者会議を開催する。 | 3,491,680 | 区内の子ども関係団体・機関（38団体・機関）が参加するネットワーク会議を年3回開催した。またネットワーク会議の部会1「子どもの発達支援」では部会を2回開催し、保護者向け講演会2回、支援者向け講演会2回、保護者の交流会を10回開催した。部会2「みんなで子育てフェアさいわい」では部会を5回開催し、地域と親子の交流を図るイベントの企画、準備、広報活動と2月23日にフェアを実施し、804人の参加があった。部会3「子どもの安全・安心」では、部会を2回開催するとともに、10月20日に子どもの安全安心教室を実施した。部会4「子ども情報ネットさいわい」では部会を9回開始し、小・中学生向けの情報紙を年3回（各11,000部）作成し、全小学校・中学校に配布した。 要保護児童対策地域協議会幸区実務者会議では、全体会（2回）、事例検討会（3回）を開催するとともに虐待予防講演会を実施し、105人の参加があった。 | 目的はほぼ達成できた。今後も区民や関係団体・機関と連携して幸区における子ども・子育て支援のネットワークの推進を図る必要がある。 | A |
| (2) おこさまっぷさいわい発行事業 | 子ども支援室 | 子育て中の世帯が孤立することなく、安心して子育てが出来るよう、幸区を中心とした地域の子育て情報を掲載した子育て情報誌を発行する。 平成21年度に作成した「おこさまっぷさいわい」について、行政情報などの内容を更新し、2012年度版として改訂する。また、2013年度版は掲載内容の見直しをおこなうため、新たに市民団体、ボランティア団体、行政機関や公募委員等からなる子育て情報誌編集委員会を立ち上げ、掲載内容の検討を行う。 | 1,135,735 | 2012版として行政情報などの内容を最新のものに更新した幸区子育て情報誌「おこさまっぷさいわい」を6月に6000部印刷し、母子健康手帳配付者、転入者及び希望者に交付した。 また、2013年度は大幅な掲載内容の見直しをおこなうため、新たに子育て情報誌編集委員会を立ち上げ、平成24年6月から編集委員会及び事前の準備回を毎月開催した。 編集委員会では、公園部会、一時保育部会、仲間をつくろう部会の3部会を設け、編集委員会や準備会で内容の検討や情報収集を行い、2013年度版「おこさまっぷ」の原稿を取りまとめた。 | 2013年度版の表紙やカットについても編集委員が自ら作成する等、情報誌の作成に区民が積極的に関わっている。今後も区民の求める情報を的確に提供するため、区民や関係団体・機関と連携して事業を実施していくことが必要である。 | A |
| (3) 子ども・子育て支援事業 | 子ども支援室 | 子育て中の世帯が孤立することなく、安心して子育てが出来、地域全体で子どもや子育てを支援できるよう子ども・子育て支援事業を実施する。 子育て交流の場の拡大、父親の育児参加の促進、子育て関連情報の提供、子ども相談窓口の充実、幼稚園・保育園・小学校の連携の強化、子育て支援関係機関・団体の交流等各種事業を実施する。 | 3,087,051 | 子ども相談事業では、0歳から18歳までの子どもに関する各種相談を受けるとともに母子健康手帳の交付、保育所入所の案内を行った。 「うえるかむサロン（転入者交流会）」を幸区役所、日吉出張所で各2回実施した。子育て関係機関交流会を年3回実施した。子どもの成長を連続的に支援できるよう幼・保・小連絡会、保育園実習研修、幼稚園・保育園職員の小学校授業参観等を実施した。 父親の育児参加を促進するため各種事業を土曜日に実施し、多くの父親の参加があった。（地域子育て支援センターでの子育て支援講座（父親54人）、地域子育て支援センターふるいちばでの第3土曜日開所（父親176人）、子ども文化センターでの「パパッとサタデー（講座型）」（父親224人）） 思春期対策事業として、不登校や思春期の子を持つ親のための講演会及び川崎市看護短期大学と協働でピアカウンセリング（思春期の仲間同士によるカウンセリング）講座を実施した。 区民団体と協働で「おでかけ“ぼかぼか”（出張青空子育て広場）」、「楽しく子育て@ふるいちば」、「パパッとサタデー（自主運営型）」を実施した。 毎月、「子ども・子育て」のホームページを更新するとともに、「お散歩にいこうね！」「絵本読み聞かせタイム」等の発行を行い子育て情報を積極的に発信した。 | 目的はほぼ達成できた。今後も区民や関係団体・機関と連携して事業を継続していく必要がある。 | A |
| (4) さいわい夢保育事業 | 子ども支援室 | 川崎市保育基本計画で新たな公立保育園の役割として「地域の子ども・子育て支援機能の強化」及び「民間保育園への支援と適切な指導・監督の実施に向けた人材育成」を定めていることから、現場の状況を最も熟知した各保育園において主体的に計画を策定し、これを区役所として支援して、各保育園が地域のニーズを反映した特色ある保育園運営を実施することを目的とする。 「保育園活動活性化・豊かな体験活動」「保育園・地域連帯」「人材育成」「特色ある保育園づくりの園内研究」「民間保育園への支援・連携」についての保育園からの提案内容により実施する。 | 967,555 | ・地域における子育ての拠点として、公営保育園で地域子育て支援事業『絵本読み語り』公営保育園10園にて実施1300名参加『スマイル♡ママ』10回259名参加『プレバパプレママ体験』9回25名参加、地域向け「お話し」年4回158名参加等実施した。 ・公営保育園の役割でもある、民営保育園との連携や適切な指導・助言の実施に向け人材育成としても、保育交流『あおぞらスイム』（プール遊び、指導含む）7～8月、園内研修『支援の必要な子への関わり方』年7回46名参加、『心と体を育てるリズム遊び』年6回220名参加、研修会『絵本と子どもの幸せな出会い～絵本の選び方・読み方・楽しみ方～』年1回78名参加等を実施し、民営の保育園職員と共に学ぶ機会を多く持った事で職員のスキル向上が図れた。 | 予定通り目的を達成できた。近隣保育園や地域住民からの参加も多く、公営保育園を基盤に実施した「さいわい夢保育事業」として、地域における子育て力の向上や保育の質の向上につなげることができた。 | A |
| (5) 幸区子ども学習サポート事業 | 生涯学習支援課 | 日本語を母語としない子どもたちへの基礎的な学力の支援を地域で行うため、学習支援ボランティアを養成し、地域の教育力を高めながら、区民の主体的な活動を促し、地域における子ども支援策を推進する。 NPO法人教育活動総合サポートセンターとの協働により、学習支援ボランティア養成講座（全6回程度）を行い、サポートセンターからの派遣指導者と養成講座を修了したボランティアによる月2回の学習支援を実施する。 | 381,000 | ・7～8月にかけて「学習支援ボランティア養成講座（全6回）」を市民館で行った。13名の受講者のうち、10名が学習サポート教室でのボランティアとして活動している。 ・学習サポート教室については、当初10月から月2回実施の予定だったが、子どもが集まりにくく、2月から週1回の実施と変更して、3月末まで東小倉小学校の多目的室を借りて、3名の参加者を対象に行った。 ・3月にボランティアのフォローアップ研修を2回行った。 | 対象が「外国につながる子ども」であり、学習支援へのボランティア活動にどれだけの区民の関心・協力があるだろうかと懸念したものの、他区・他自治体からの問い合わせ・申込みもあるなど、この問題に対する地域の関心は決して低くない。年間を通して直接の説明やPRを行うことにより、学校独自の要望もでてきている。 | A |

評価：事業目的に対する達成度 AA 大きく上回る成果を達成 A+ 上回る成果を達成 A 達成 B 下回る成果 B- 大きく下回る成果

平成24年度幸区地域課題対応事業 事業評価

| 事業名 | 所管課 | 目的及び内容 | 決算額 | 実施結果 | 事業の評価 | 評価 |
|-------------------------|-------------|--|-----------|---|--|----|
| 4 環境まちづくり事業費 | | | | | | |
| (1) 花と緑のさいわい事業 | 地域振興課 | 区内の緑化推進と緑化意識の高揚を図るとともに、区民間の交流を促進するため、花と緑の潤いあるまちづくりを推進する。 「区庁舎前庭での花いっぱい事業」、「公共花壇花植え事業」、団体へ花苗等を配付する緑化活動団体支援事業を年2回ずつ実施するほか、緑化活動に関する出張講座と講演会をそれぞれ開催する。 | 3,482,000 | (1)「さいわい花クラブ」と連携を図りながら、次のとおり花植え等の活動を行った。 ・「区庁舎前庭花いっぱい事業」:活動日数述べ14日 ・「公共花壇花植え事業」(大師堀):活動日数述べ14日(植付は、下平間小学校・塚越中学校と連携し、子どもと一緒に実施した。) (2) 新規会員の獲得、会員のスキルアップ等を目的として、「さいわい花クラブ」の主催による「ハーブが香る素敵なお菓子作り」のイベントを開催し、25名の参加者があった。 (3)「緑化活動団体支援事業」は、5月に35団体、10月に36団体の花苗等を提供した。 (4)「花と緑のエキスパート事業」は、10月に緑化活動団体1団体に出張講座を2回行い、3月に区民を対象とした花のまちづくり講演会(約100名が参加)を開催した。 | 事業全体の効率的な再編、見直しを行いながら、効果的に区内の緑化推進及び区民の緑化意識の高揚、花と緑の潤いあるまちづくりの推進という目的に沿った成果を得ることができた。 | A |
| (2) 花と緑のさいわい事業(公共空間の緑化) | 道路公園センター整備課 | 道水路の余剰地を活用し、緑豊かな環境づくりに取り組む。 さいわい歩道橋の南東部に隣接する、既存の花壇敷地に季節に合った花(ペゴニア、パンジーなど)を、デザイン・景観を考慮して配置し、緑化促進を図ると共に、通行する区民及び近隣地域居住者等に潤いと安らぎを与える。 | 735,000 | 年2回植替を実施した。 第1回:6月 ペゴニア、マリーゴールド、サルビア等の植付け 合計960株 第2回:12月 ハボタン、パンジー、ノースポール等の植付け 合計960株 年12回管理業務(除草、灌水等) | 季節の花が咲いている様子で潤いと安らぎを与え、さいわい歩道橋付近の環境の向上につながる景観整備が年間通して維持することが出来たと思われる。 また、管理業務を実施したことにより、花壇に関する苦情が無くなった。 | A |
| (3) さいわい・はじめようエコ事業 | 企画課 | 区民会議の提言を踏まえ、地球温暖化防止活動、リサイクル等、地球環境に配慮した行動をできることから始めようと呼び掛け、区内でのエコの取組を進める。 地球温暖化、リサイクル、節電対策等の地球環境に配慮した取組を推進するため、区民への啓発を行う。 子ども環境展、環境作品コンクール、打ち水イベントの開催、緑のカーテン設置、リユース食器利用促進などを行う。 | 3,868,509 | 区内における地球配慮活動の取組を進めるため次の取組を実施した。 ・区役所・日吉合同庁舎のほか、市民館、保育園、こども文化センター等でゴーヤーを利用した緑のカーテンを実施し、節電対策の取組を推進した。また、市政だより区版等でゴーヤーの種配布を広報し、区への割当(200袋)を上回る計270袋を配布し、区内での実践が拡大した。 ・打ち水イベントを7月に下平間春風公園(参加者150名)で、また、企業のリサイクルイベントや地域団体の音楽イベント等と連携してラゾーナ川崎プラザ、ミュージア川崎でそれぞれ実施し、多数の区民等の参加があり、広範囲に効果的に環境配慮意識の普及啓発をすることができた。また、ケーブルテレビ等のマスメディアを活用することで、さらに効率的に広報できた。 ・日吉まつりやPTAのバザーなど、区内の4つのイベントで、リユース食器の普及啓発の取組を進めることができた。 ・市民活動団体との協働により、区役所、日吉出張所において廃食油の回収を9月から月1回実施して、区民のリサイクル意識の高揚を図った。 ・10月28日に幸スポーツセンターで、区内等で環境関連活動を行っている企業・団体等(計34団体)と協力し、区誕生40周年を記念した体験型のイベント「幸区子ども環境展」を初めて開催し、1,100名の来場者が区内での取組や先端の環境技術を学び、環境に興味を持つきっかけとなった。 ・また、併せて環境をテーマにした環境作品コンクールの募集を行い、小学生を中心に計259作品の応募があった。優秀作品の表彰式を幸区子ども環境展で実施し、来場者に紹介するとともに、会場内での全応募作品の展示のほか、優秀作品の幸市民館、日吉出張所での展示など、広く発信することができた。 | 地球温暖化対策や節電対策の必要性など、今まで以上に地域や家庭による地球環境に配慮した取組が求められており、企業や団体等と連携した打ち水や子ども環境展の実施をはじめ、保育園等の区内公共施設での緑のカーテンの設置、多様なイベントでのリユース食器の利用促進などにより、効率的に環境配慮行動の呼びかけを行うことができた。 | A |

平成24年度幸区地域課題対応事業 事業評価

| 事業名 | 所管課 | 目的及び内容 | 決算額 | 実施結果 | 事業の評価 | 評価 |
|------------------------|-------|--|-----------|--|--|----|
| 5 地域資源活用事業費 | | | | | | |
| (1) さいわいものづくり体験事業 | 地域振興課 | <p>研究開発施設やものづくり関連施設が集積した幸区の特徴を生かし、これらの地域資源を活用した科学技術体験教室や区内の企業や団体と連携して行う科学体験イベントを開催することにより、青少年がものづくりの基礎となる科学技術を体験的に学ぶとともに、地域と研究開発施設等との連携を深める。</p> <p>ものづくり体験教室「さいわいテクノ塾」(年1回、区内企業と連携)、科学体験イベント「科学とあそぶ幸せな一日」(年1回、区内大学、企業、団体と連携)、親子を対象とする「さいわい親子科学体験教室」(年1回、親子で参加する体験型科学技術教室)を開催する。</p> | 1,127,328 | <ul style="list-style-type: none"> ・さいわいテクノ塾「ミニ電気自動車をつくろう」日程:8月8日(水)会場:東芝科学館 定員:35名(応募236名) 内容:身近にあるもので電池づくり・電池を使ったミニ電気自動車づくり ・「科学とあそぶ幸せな一日」日程:9月17日(土)会場:新川崎創造のもり一帯 定員:1,300名 内容:気軽に科学の楽しさが体感できる実験教室、ものづくり体験講座 ・「さいわいトライサイエンス実験教室」日時:2月23日(土) 会場:NANOBIIC 定員:52名(応募150名) ※その他保護者・兄弟など約50人以上参加 内容:風船ロケットをつかった実験と音の不思議を体感する実験 | 業者委託によって実施していた「さいわい親子科学体験教室」について見直しを図り、企業との連携により質が高く、費用も5割以上削減できるなど、想定を上回る成果を上げることができた。低学年を中心に高いニーズが確認される。 | A+ |
| (2) 音楽のまち推進事業 | 地域振興課 | <p>区役所等の公共施設を会場として、気軽に良質な音楽を楽しめる定期コンサートである「夢こんさあと」、若者を中心とした演奏者に演奏発表の機会を提供する「さいわい街かどコンサート」、区内の音楽サークルが演奏を通じて区民との交流を目指す「さいわい区民音楽祭」を開催し、区民が身近な場所で音楽に親しめる環境をつくり、音楽のまち・かわさきを推進する。</p> <p>「夢こんさあと」を8回、「さいわい街かどコンサート」を3回、「さいわい区民音楽祭」を1回開催する。</p> | 4,122,425 | <ul style="list-style-type: none"> ・「夢こんさあと」は、区民による実行委員会と連携を図りながら、市民館や日吉分館などにおいて年8回開催し、各回約150名の来場者があった。また7月には、15周年を記念して、夢見ヶ崎動物公園で環境教育の観点を踏まえた屋外コンサートを開催し、約400名の来場者があった。 ・「さいわい街かどコンサート」は12月と2月に計3日間、ミュージアム川崎1階ギャラリーで開催し、計14組の演奏者に出演していただいた。 ・「さいわい区民音楽祭」は3月2日に開催した。演奏者は6組、来場者は約600名であった。 | 各イベントを通して広く区民が音楽に親しめる環境の場を作るとともに、音楽愛好家の演奏機会を提供するなど、「音楽のまち・かわさき」の推進という事業目的に沿った成果を達成することができた。 | A |
| (3) 幸アーカイブ～地域の記憶を残す～事業 | 地域振興課 | <p>昔の幸区の映像や思い出を収集整理し、地域の歴史や変遷の記憶を区民と共有することにより、郷土愛や地域への愛着心の醸成を図る。また、貴重な記録として後世に伝えていく。</p> <p>区ホームページへの情報更新を行うほか、郷土記憶資料による写真展の開催、「かたりべ」を活用した郷土記憶の収集、区制40周年を記念した冊子・DVDの作成を行う。</p> | 2,297,897 | <ul style="list-style-type: none"> ・「幸区誕生40周年記念DVD」の制作 枚数:350部 主な配布先:公共施設、学校、町内会自治会、制作に協力してもらった団体など 掲載内容:「幸区誕生40周年記念誌」のデータを基に、区の魅力や歴史を映像でつづる ・「さいわい子ども写真展」の開催 募集対象:区内の小学生 応募数:69点 内容:幸区民祭での展示及び入賞者の表彰、区内3カ所での巡回展示、区の広報で使用など ・記念誌や地区ごとのアーカイブ写真を活用した小学校への出前授業の実施、記念パネルの作成 第1回:夢見ヶ崎小学校(3年生54名) 第2回:幸町小学校(3年生85名) パネルの活用:区内の小中学校6校での展示 ・記念誌を活用した講演会・授業の開催 (幸区老人クラブ連合会、幸観光協会、幸文化協会との連携による講演会の開催の他、幸区の小中学校に異動で来た教員向けの「異動1年目研修」での特別授業を実施) | 「幸区誕生40周年記念DVD」の制作に加え、同DVDと「幸区誕生40周年記念誌」の活用の際して、「幸区ふるさと編集委員会」との綿密な連携により、学校への出前授業やパネル展など、当初の予定より広範かつ効果的な事業展開を行い、想定を上回る成果を上げることができた。 | A+ |

平成24年度幸区地域課題対応事業 事業評価

| 事業名 | 所管課 | 目的及び内容 | 決算額 | 実施結果 | 事業の評価 | 評価 |
|----------------------|---------|---|-----------|--|--|----|
| (4) 地域資源を活かしたまちづくり事業 | 生涯学習支援課 | <p>日吉地区に点在する自然・歴史・文化などの豊富な地域資源を大切にするとともに、地域で活動する団体・個人がこれらの地域資源を活用し、これを次世代に継承していくことにより、地域資源を活かしたまちづくりを推進する。</p> <p>① 団体がネットワークをつくり、地域資源を活かしたイベントや情報提供を行うとともに、世代間の交流を図る。(「日吉のタカラモノを次世代につなげる地域ネットワーク推進事業」)</p> <p>② 地域の歴史・文化を活かしたまちづくりを推進するため、地域の歴史を再発見する学習会や子ども向けに夏休み自由研究講座を実施する。(郷土の歴史と文化を活かしたまちづくり事業)</p> | 964,000 | <p>1 日吉のタカラモノを次世代につなげる地域ネットワーク事業 地域で子育て・自然・歴史・文化振興を中心に活動している8団体と個人委員により地域ネットワークをつくり、次の事業を実施した。 (1)加瀬山で遊ぼう(7/30) 86名 (2)ひと月遅れのお正月(2/3) 63名 (3)防災講座「私たちのまち大丈夫？みんなで学ぼう地域の防災」(2/16)53名 (4)地域の情報を満載したネットワーク新聞の発行(7/5・11号、3/4・12号)それぞれ3,500部 (5)地域の団体との協働イベント(夢の星空コンサート参加、かわさき！かるた大集合で川崎アゼリア「広報コーナー」展示、南加瀬小学校「かせっこフェスティバル」参加、老人いこいの家まつり参加、日吉まつり参加、南加瀬中学校地域教育会議「地域ふれあいの会」参加、第9回さくらフェスタ日吉参加) (6)専修大学ネットワーク情報学部の学生グループとの連携による団体リーフレットの作成等 (7)日吉のタカラモノかるた(小型)制作(200セット)、広報のためのしおり制作(1,000枚)および販売(3/16現在72部売上) (8)日吉のわっろご入りソーラーLEDキーホルダー 250個</p> <p>2 郷土の歴史と文化を活かしたまちづくり事業 (1)「郷土の歴史再発見」年間12回 延べ461名 (2)夏休み自由研究講座の実施(8/10) 24名参加 (3)地域ボランティア(ガイド事業他) 夢見ヶ崎小学校教員研修(6/6)、夢見ヶ崎小学校6年歴史教育(6/15)、日吉まつり講演(7/29)、夏休み自由県境講座(8/15)、日吉小学校総合学習6年生(9/24)、東小倉小4年生課外学習(2/12)、日吉小3年生もち焼き体験(2/27,28)</p> | 地域で活動する団体がネットワークをつくり日吉地区特有の自然・文化・歴史を守り、そしてそれを多くの人に知ってもらうための事業を展開しながら地域間・世代間の交流を促進する本事業は日吉地区にとって貴重な事業と言える。特に地域の子供達が違った世代と触れ合う時間が少なくなっている現代社会で多くの参加者が得られていることは、事業の成果があがっていると言える。 | A |
| (5) さいわいガイドマップ発行事業 | 地域振興課 | <p>主に区内への転入者などを対象として、地図などの区民の生活に必要な情報を提供することを目的とする。</p> <p>「さいわいガイドマップ」の地図面や公共施設の一覧、バス路線図の情報など最新の情報を更新するとともに、情報面の掲載内容について精査の上、改訂・増刷する。</p> | 661,500 | <ul style="list-style-type: none"> 最新情報への更新やデザインの見直しを図り、幸区への転入者向けにガイドマップを10,000部発行した。掲載情報については、各所管課に照会をすることで効率的かつ正確な情報を掲載することができた。 転入者への案内として、区の代表的な事業や区の魅力を紹介するとともに、「カラーバリアフリー」に配慮し、色の区別がつきにくい人にも見やすく使いやすい地図にできた。 | 地図などの区民の生活に必要な情報を提供するなど、事業目的に沿った成果を達成することができた。 | A |
| (6) 幸区データブック発行事業 | 総務課 | <p>さいわいデータブックは、様々な統計データや情報を収集して、見やすい文字の大きさ、色、イラスト、デザイン等で表現し、分かりやすく親しみやすい小冊子を作成・配布するとともに、市インターネットホームページ上に公開し、広く市民の閲覧に供することにより、区民に地域の特性や実情を案内することを目的としている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 小冊子1,000部を作成・配布 市インターネットホームページに掲載 | 154,350 | <p>さいわいデータブック2012概要版を1,000部作成し、幸区役所及び日吉出張所で配布している。配布開始から5ヶ月で約500部を配布している。</p> | 前年度からの改善点や配布状況から、事業概要における目的を達成しているため、概ね評価できる内容である。 | A |
| 6 地域コミュニティ活性化推進事業費 | | | | | | |
| (1) スポーツ推進事業 | 地域振興課 | <p>地域で気軽にスポーツに触れることのできる機会を提供することにより、区民の健康及び体力の保持増進を図るとともに、スポーツを通じて住民同士の交流が生まれ連帯感が高まることで、活力のある明るく住みよいまちづくりに資することを目的とする。</p> <p>区内スポーツ関係団体が主催する各種大会等を支援することにより、区民の健康、体力の保持増進及び心身の健全な発達等を図る。また、地域のスポーツ資源を有効に活用しながら各種大会や講習会等を開催し、スポーツを行う機会をより多く提供することで、スポーツによる明るく活力あるまちづくりを推進する。</p> | 268,546 | <ul style="list-style-type: none"> 区民バスケットボール大会を実施し、区民のスポーツに触れる機会をより多く提供することができた。 各種団体が主催する大会に対する支援については、町内会対抗ソフトボール大会を始め、グラウンドゴルフ大会や少年サッカー大会等合計6大会に区長杯優勝トロフィー等の授与を行った。 | 区民バスケットボール大会の開催や、各種大会への区長杯優勝トロフィーの授与など、概ね想定していた事業目的を達成できた。 | A |
| (2) 市民活動等支援事業 | 地域振興課 | <p>幸区で活動するテーマ型・地縁型の市民活動団体への活動支援を行うことを目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民活動団体等が打ち合わせや作業、展示、印刷などを行える場として、幸区役所内に市民活動支援コーナー「スペースcha-cha-cha」を設置し、運営する。 市民活動団体等が会議や講座、情報交換などを行える場として、河原町団地内に「幸市民協働プラザ」を設置し、運営する。 | 1,147,695 | <ul style="list-style-type: none"> 市民活動支援コーナーの登録団体は80団体(平成23年度:65団体) 印刷コーナーの年間利用件数:150件(平成23年度:127件) 交流コーナーの年間利用件数:42件(平成23年度:38件) 展示スペースの年間利用件数:24件(平成23年度:23件) 幸市民協働プラザの年間利用件数:101件(平成23年度:180件) | 活動スペースの提供や印刷機の貸出しなど、概ね事業目的に沿った事業実施を行うことができた。 | A |

評価:事業目的に対する達成度 AA 大きく上回る成果を達成 A+ 上回る成果を達成 A 達成 B 下回る成果 B- 大きく下回る成果

平成24年度幸区地域課題対応事業 事業評価

| 事業名 | 所管課 | 目的及び内容 | 決算額 | 実施結果 | 事業の評価 | 評価 |
|---------------------|-------------|--|------------|---|---|----|
| (3) 地域の魅力発信事業 | 企画課 | <p>区の魅力あるまちづくりを推進するため、区民会議の提言を踏まえながら、夢見ヶ崎動物公園を中心とした周辺を「地域の資源」として魅力を高めるとともに、活かしていく取組を進め「夢見ヶ崎公園魅力発信実施計画」に基づき、来園者に優しい魅力ある施設として着実に事業を推進する。</p> <p>了源寺からのアクセス道整備、日吉小学校からのアクセス道整備、維持管理のための樹木調査とデータ化・樹名板の設置、第9号古墳の整備、散策路整備(斜面地整備、草花の植樹)を実施する。</p> <p>また、事業上の調整等については、夢見ヶ崎公園庁内検討会議を開催して庁内調整を十分に図りながら、夢見ヶ崎公園検討協議会を開催し、市民との協働の基で実施する。</p> <p>事業予算の執行に当たっては、国土交通省所管の「社会資本整備総合交付金」を導入する。</p> | 47,083,760 | <p>了源寺からのアクセス道整備、維持管理のための樹木調査とデータ化・樹名板の設置、第9号古墳の整備、散策路整備(斜面地整備、草花の植樹)を実施した。</p> <p>夢見ヶ崎公園庁内検討会議を開催して庁内調整を十分に図りながら、夢見ヶ崎公園検討協議会を開催し、市民との協働の基で事業を実施した。</p> <p>事業予算の執行に当たっては、国土交通省所管の「社会資本整備総合交付金」を導入した。</p> <p>なお、日吉小学校からのアクセス道整備については、工事着事後、地中に不明な障害物が発見され、調査・撤去に時間を要したため、完成が次年度になった。</p> | <p>レッサーパンダの出産に配慮するため、一部の園路工事ができなくなるというアクシデントも発生したが、関係課等との調整を綿密に行うことにより、事故等はなく、無事に工事が終了し、レッサーパンダの生育に影響を与えることもなかった。</p> <p>本事業の実施により、アクセス道のバリアフリー化が図られ、誰もが安心して公園に訪れることができるようになり、多くの来園者にとって、魅力ある施設として着実に事業を推進できたことから、目的は十分達成することができた。</p> | A |
| (4) 鹿島田駅周辺総合的環境整備事業 | 道路公園センター管理課 | <p>鹿島田駅周辺の地域の活性化と暮らしやすいまちづくりに向けて、区民協働で道路美化対策など総合的な環境整備を推進するとともに、達成感と満足度の高い自主的な地域コミュニティの形成を目指し、区民とともに地域の課題やあるべき姿を相互に認識し、区民協働によって課題の検討を行い、問題解決に向けた取り組みを行う。</p> <p>町内会・自治会、商店会、小学校、中学校など地域で設立する協議会との協働により、放置自転車やゴミのポイ捨て等に対応した総合的な環境整備活動を展開する。</p> | 854,000 | <p>協議会の開催(年4回)、環境イベント(年2回)の実施、小中学生による啓発ポスターの作成・掲示(応募件数:小学生39点、中学生11点)、有償ボランティアによる活動(週2日)の本格実施など、区民協働により各課題の検討及び問題解決に向けた取り組みを行った。</p> | <p>地元と一体となった放置自転車対策活動により、鹿島田駅前周辺の放置自転車を減少させるなど、暮らしやすいまちづくりを推進することができた。</p> <p>また、地域団体が構成される協議会との協働で実施した道路美化等環境整備活動により、顔の見える関係が生まれ、新たなコミュニティの形成へとつながった。</p> | A |
| (5) まちづくり推進事業 | 地域振興課 | <p>幸区内における様々な課題を把握して、その解決方法について合意形成を図り、課題解決を実現する場としての「幸区まちづくり推進委員会」を組織する。区の地域特性を生かした区民協働の実践型組織としての役割を確立するとともに、委員会活動を通じて、個性豊かな魅力あるまちづくりを推進する。</p> <p>第6期まちづくり推進委員会では、活動期間を3年間(平成23年度から平成25年度)とするとともに、2つの協議会を設置し、次の内容の調査・検討・実践活動等を行う。</p> <p>① 地域課題解決協議会:区内の地域課題を発掘し、その課題解決に向けて実践活動を行う。</p> <p>② 市民活動支援組織設立協議会:幸区の市民活動団体のニーズや課題を把握しながら、市民活動支援組織のあり方を検討し、提案する。</p> | 3,951,000 | <ul style="list-style-type: none"> ・課題解決協議会では、2つのテーマ「地域におけるコミュニティの充実を」「区内の散歩道を探そう、広めよう！」でプロジェクトチームを立ち上げ、それぞれ具体的な活動を実施した。 ・「地域におけるコミュニティの充実を」は、地域で協力しあい、支えあうための仕組みづくりを目指す目的で、高齢者等を対象にした会食会の実態調査や緊急連絡先などをカードに整理し、身につける「セルフカード」の検討を進めた。 ・「区内の散歩道を探そう、広めよう！」は、幸区ならではの風景、歴史、施設を巡り、四季を感じることができる7つの散歩道のコースを設定し、町内会・自治会とともに実態調査を行った。 ・市民活動支援組織設立協議会では、幸区における市民活動支援の仕組み、拠点づくりに向けて検討を進めるため、区内の市民活動団体にアンケート及びヒアリングを実施し、市民活動団体が抱える課題やニーズ調査を行った。 | <p>まちづくり推進委員会の活発な活動を通じて、個性豊かな魅力なまちづくりを推進することができ、事業目的に沿った成果があげることができた。</p> | A |
| (6) 幸区多文化共生推進事業 | 生涯学習支援課 | <p>外国人市民及び外国文化に対して、既成概念にとらわれず、柔軟な姿勢で理解し、交流する姿勢を育むことにより、世界に広く開かれた地域づくりと相互理解を基盤とした多様化による地域の豊かさの実現を目指す。</p> <p>幸区多文化共生推進事業実行委員会との協働により、多文化フェスタさいわい及び多文化共生に関する講演会をそれぞれ年1回ずつ開催するほか、国際理解基礎講座(全5回程度)を実施する。</p> | 554,000 | <ul style="list-style-type: none"> ・9月に、リニューアルして開催した「多文化フェスタさいわい」には外国人市民を含む市民約1,000人が来場し、様々な文化を体験しながら、楽しく交流する機会を提供した。 ・多文化共生に関する講演会については、「多文化コンサート」と題し、「多文化フェスタさいわい」のプレ・イベントとして9月に開催し、市民約300人が来場し、歌手・李政美さんの歌を楽しみながら、在日コリアンの歴史や思いにふれる学習機会を提供した。 ・10月～3月にかけて、国際理解基礎講座として実施した「多文化トレインinさいわい」(全7回)には、延べ90人の市民が参加し、地域の中にある外国文化を訪ね、幸区における多文化について考える学習機会を提供した。 | <p>幸区多文化共生推進実行委員会としては初年度の事業だったが、委員会に外国人市民も2名加わり、毎月、話し合いを重ね、当初予定していた3つの事業を実施することができた。特に、「多文化フェスタさいわい」では、多文化カフェや日本のお祭りなどを新たに企画し、外国人市民には民族衣装によるファッションショーや盆踊り、書道・茶道・華道などの日本文化体験コーナーが好評だった。また、市立商業高校の生徒10人がボランティアとして参加してくれたほか、川崎市国際交流協会や総務局国際施策調整室、関東美容専門学校などの協力を得て、当初の予定を上回る充実した内容のフェスタを開催することができた。</p> | A+ |
| (7) 幸区制40周年記念事業 | 企画課 | <p>平成24年に区誕生40周年を迎えるため、記念事業として、区民の区への愛着を高めるとともに、区民同士が交流するきっかけづくりを行う。</p> <p>自分の住んでいるまちに、より関心や親しみを持ってもらえる取組を行う。</p> | 489,431 | <p>区誕生40周年を記念したロゴシールの作成と広報物等への貼付、公共施設での卓上のぼり旗の設置等を行ったほか、幸区内で販売される「かわさき名産品」への貼付を卓上のぼり旗の設置と併せて商店に依頼し、区民へ40周年の周知を図った。</p> <p>また、7月に夢見ヶ崎公園での「夢の星空コンサート」(来場者400人)、10月に幸スポーツセンターでの「幸区子ども環境展」(来場者1,100人)など、区誕生40周年を記念する事業の実施により、多くの区民に対し、40周年の周知と区の魅力の発信を行うことができた。</p> | <p>ロゴシールを「かわさき名産品」への貼付を行うなど、40周年の周知を商店等と連携して実施することにより、効率的かつ効果的に発信することができた。また、記念事業には多くの来場者があり、多くの区民に対して40周年の周知と愛着心の醸成をはかり、区民交流の場を提供することができた。</p> | A |

平成24年度幸区地域課題対応事業 事業評価

| | 事業名 | 所管課 | 目的及び内容 | 決算額 | 実施結果 | 事業の評価 | 評価 |
|----------------|------------------|------------|--|-----------|---|--|----|
| (8) | 地域コミュニティ推進事業 | 地域振興課 | 地域コミュニティの活性化に向けて、町内会・自治会の地域活動の支援等を行う。 行政から依頼している回覧及び掲示依頼物を、区役所で集約し、毎月末に委託業者から一括配送することで、町内会・自治会の負担を軽減し、地域活性化を図る。(平成24年度から実施) | 215,699 | 町内会・自治会と意見交換を行いながら仕組みを構築し、平成24年8月から、回覧依頼物の一括配送等を実施した。(配送資料実績:63件) | 今後、町内会・自治会の意見を聞きながら改善を図っていく必要があるが、町内会・自治会の負担軽減、行政の事務効率化など、事業目的に沿った成果が得られた。 | A |
| 7 区役所サービス向上事業費 | | | | | | | |
| (1) | 区民に身近な区役所づくり推進事業 | 区民課 企画課 | 幸区に新たに居住される方へ、「かわさき生活ガイド」などのパンフレット類や、届出書の記載例を事前に配布することによって、必要な手続き等を周知し、窓口での対応時間を短縮する。 また、窓口サービス向上のための取組として来庁者アンケートを実施する。 大規模マンション建設に伴う大量転入に対応し、窓口時間の短縮を図り、混雑緩和と窓口の快適性を高めるため、転入手続きのための資料作成と郵送を行い、届出書等を事前に記載してもらう。 窓口サービス向上のため、来庁者アンケート(500枚配布)を実施する。 | 50,500 | ・マンション管理会社との話し合いで、説明会には参加できなかったが、説明会において各種届出書とその記載例、「かわさき生活ガイド」、「ごみカレンダー」等の資料を配布した。 ・3月中の平日開庁日の3日間、来庁者500人に対しアンケートを実施した。 | 目的を概ね達成することができたが、区民に対するサービスの改善を今後とも行っていく。 | A |
| (2) | 幸区情報発信推進事業 | 企画課 | 区民に対し、地域の課題解決への取組状況、参加と協働の取組などを広報する。また、区ホームページをより区民にとって情報を入手しやすく親しみやすい媒体とするため、充実を図る。 さいわい広報特別号を年2回発行するとともに、区ホームページへの動画掲載などにより広報の充実化を図る。 | 1,743,840 | さいわい広報特別号を10月と3月に発行し、日刊紙(朝刊)への一斉折込と区内公共施設での配布を通じて区民への情報発信を行った。 10月発行分は区誕生40周年を記念し、区内96商店の参加を得て、商店を巡るスタンプラリー特集として、地域の商店の魅力を発信し、区民の地域への愛着心の醸成と、商店を通じたコミュニティの活性化を目的に48,000部発行した。 3月発行分は、地域防災計画の修正をはじめとした区の取組と区民会議の審議を踏まえ、防災を特集し、地域における活動のインタビュー記事を掲載するなど区民に身近な内容で、東日本大震災から2年を迎える日に、45,000部発行した。 また、区民会議フォーラムや幸区子ども環境展、打ち水等を動画化してホームページに掲載し、区民に親しみやすく、かつ分かりやすいホームページづくりを行った。 | 区の課題解決への取組や地域の魅力等を掲載した広報特別号を発行し、新聞折込や公共施設での配布により、広く区民への周知が図れた。また、区ホームページについても、必要な情報の随時掲載のほか動画を活用するなど、区民にとって情報を入手しやすく親しみやすい媒体とすることができた。 | A |
| (3) | さいわい区民アンケート事業 | 企画課 | 区政に対する区民の意識を多面的に調査することにより、区民の生活意識や行政に対する意識を明らかにし、区政運営及び地域課題解決の参考とする。 区民アンケート調査を区内在住の満20歳以上の男女(外国人を含む)2,000人を対象に、無作為抽出で実施する。調査期間は平成24年6月中とする。 | 1,044,750 | 調査は、2,000標本のうち半数に近い879標本の有効回収があったことで、回収率は44.0%となり、短期間で効率的・効果的な調査を実施することができた。 | 実施時期を検討し、6月中に実施することで、区民の生活意識や行政に対する意識を効果的に把握し、把握した課題について次年度の予算要求等へ反映させることで、地域課題の速やかな解決に向けた適切なアンケート調査の運用を図ることができたことから、目的は達成したと考える。 | A |

平成24年度幸区地域課題対応事業 事業評価

| | 事業名 | 所管課 | 目的及び内容 | 決算額 | 実施結果 | 事業の評価 | 評価 |
|----------------|-------------|-----|--|-----------|--|--|----|
| 8 地域課題対応その他事業費 | | | | | | | |
| (1) | 幸区提案型協働推進事業 | 企画課 | <p>地域課題の解決に向け、公益性の高い事業を実施できる市民活動団体等から事業提案を公募し、行政と提案団体との協働により事業を行う。</p> <p>区計画や区民会議の審議を踏まえて、地域課題となっているテーマを設定して事業提案を募集し、選考を行う。選考を通過した団体と協働で、事業を実施する。</p> | 2,045,884 | <p>平成23年度に採択となり、事業実施することが決定していた、5つの事業について、実施団体と事業所管課、企画課の協働により、実施することができた。</p> <p>【24年度実施事業】</p> <p>○地域における高齢者等の健康づくり:1件 ○身近な地域での子育て支援:1件 ○地域コミュニティの活性化:3件 ○地域の魅力発信・向上、区制40周年記念に関すること、地域におけるエコ・環境の推進:0件</p> <p>また、平成25年度の事業実施に向け、区計画や区民会議での審議テーマに基づき設定した、6つのテーマについて事業提案を募集し、6件の応募があった。書類選考による第1次選考と、公開プレゼンテーションによる第2次選考を実施し、5件を採択事業とし、1件を不採択事業とした。</p> <p>【25年度実施事業応募結果】</p> <p>○身近な地域での子育て支援:2件(採択)―「パパと子どもの簡単料理教室」、「みゆきでプレパ！2013～出張・夢見ヶ崎プレーパーク」 ○地域コミュニティの活性化:2件(採択)―「加瀬山を知り自然を学ぶ体験学習」、「誰もが楽しく練習。より豊かな対人関係を学べる事業2」 ○地域の魅力発信・向上:1件(不採択)―「動物を大切にする街「幸区」～こどもたちと「えほん」を作り動物愛護と命の大切さを伝える事業～」 ○地域におけるエコ・環境の推進:1件(採択)―「さいわい親子エコスクール事業」 ○地域における高齢者等の健康づくり・見守り・支えあい、地域の安全・安心への取組:0件</p> | <p>事業提案をする団体数も増加し、また、提案事業の種類など提案の幅が広がってきており、制度自体が区民に浸透してきていると考える。</p> <p>また、事業の実施にあたっては、実施団体と事業所管課、企画課が、明確に役割分担を行うことにより協働による効果を高め、地域課題の解決につながり目的を達成したと考える。</p> | A |